

平成 30 年度 第 2 回仙台市泉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨
(泉 6 大学まちづくりフェスティバル 意見交換会)

日 時 平成 31 年 2 月 11 日 (月・休日) 13:15~14:00

場 所 ウェルポート仙台 研修室

出席者 ○評価委員

岩動志乃夫委員長、佐藤重子副委員長、佐瀬充洋委員、真壁さおり委員、田中秀夫委員

○絆プロジェクト助成団体 (11 団体)

聖和学園短期大学スポーツクラブ BOA SORTÉ、聖和学園短期大学 DANCE FOR ALL、聖和学園短期大学地域サポーターズ聖笑、仙台白百合女子大学志水ゼミ、仙台白百合女子大学佐々木ゼミ、東北学院大学菅原真枝ゼミ、東北生活文化大学版画研究室、宮城学院女子大学土屋ゼミ、宮城学院女子大学渡部ゼミ、宮城学院女子大学正木ゼミ、宮城大学マイチゼミ

○事務局

泉区まちづくり推進課

内 容 泉 6 大学まちづくりフェスティバル (平成 30 年度企画事業『大学連携地域づくり事業・いずみ絆プロジェクト支援事業』に該当する団体等のまちづくり活動報告及びワークショップ) 終了後に評価委員から学生への評価、助言、団体間の意見交換を行った。

1 開会

2 委員紹介

3 質疑応答・意見交換等

(委員長) あまり緊張しないで、思ったこと、普段感じていることをストレートにお話ししていただければと思います。今日の発表を拝見しまして、みなさん一生懸命取り組んで、本当によく頑張って泉区を盛り上げて地域のために貢献してくれていると感じました。みなさんは、普段の授業とか課題とかをやりながら、さらにそれぞれの活動を一生懸命やってくれているということで、相当な苦労もあると思います。その中で、どのような創意工夫をしてきたのか紹介していただければと思います。

○東北学院大学 菅原真枝ゼミ (本気田っちゃ、スマイルもりもりプロジェクト)

(学生) 菅原ゼミの今年度の新しい取り組みとして、「スマイルもりもりプロジェクト・スマもり体操」というパンフレットを、基本的なストレッチと AKB 体操ときよし体操を、私たちがいなくてもできるようにという目的で作ったのですが、印刷業者さんにも協力していただいて、10 回以上打合せをして、高齢者の方が見やすいように、文字の大きさや配色を工夫しました。

(委員) 確かに、文字が普通の印刷物よりやや大きめになっていますね。これは高齢者の方も見やすいと思います。このパンフレットを見たときに、「難しそうな体操を説明しているな」と思ったのですが、さっきワークショップで一緒にやらせていただいたら面倒くささは殆んどなくて、むしろ楽しくて運動になるなあと思いました。

(委員) このキャラクターは元々あったのですか？

(学生) このキャラクターは「本田丸」というんですけども、泉区の本田町の方々から、本田町にはタヌキがよく出没すると聞いていて、一昨年の地域構想学科の学生が作成したものです。

(委員) 泉区本田町で活動することになったきっかけは、何かあったんですか？

(学生) その泉区本田町で毎月第二木曜日に「ぬくもり会」という介護予防実習グループで高齢者向けの講座などをいろいろとやっていた中で、運動する機会がほしいという要望があったそうで、当時の学生

が取り組んで作ったのが AKB 体操です。その後、本田町の方から「より知っている曲でやってみたい」という要望があって、きよし体操を去年新しく作りました。

(委員) きよしファンが多いですね。

(学生) そうですね、なじみのある曲でできるようにということで作りました。

(委員) 地域包括支援センターからの情報提供や指導などを受けたことも有効と思う。地域と顔見知りの関係になったことは成果につながると思う。

(委員) 事業内容がすばらしい。引き継ぐという長期的な狙いへ向けた活動も検討するとよい。

(委員) ぬくもり会の自主開催のために、どんな働きかけが必要か考えていくことが大切。

(委員) テキストがよくできている。わかりやすく、創意工夫もみられてよい。

○聖和学園短期大学 DANCE FOR ALL

(「DANCE FOR ALL!!」ダンスを通して地域に貢献したい！)

(学生) 南中山児童センターでの活動では、自分たちだけではなくて、会場みなさんにも呼びかけをしながら一緒に踊ったことで、子供たちや地域の方々と触れ合っていけるような取り組みを行いました。

(委員) 地域のお祭りとか、合計 36 回ですか？たくさんのイベントに参加してすごく大変だったと思うんですが、活動しているメンバーは何人くらいなんですか？

(学生) よさこいチームの和敬は 1. 2 年生合わせて 38 名です。

(委員) 毎回どのくらいの人が参加しているんですか？

(学生) みんなで参加できるものはみんなに参加しますし、行ける人がみんなで協力して参加しています。

(委員) 練習は普段どうしているんですか？

(学生) 普段は火曜日と木曜日の放課後 2 時間半くらい、イベントが近い時は昼休みなども練習しています。

(委員) 聖和短大の近くに住んでいるので、よく見させていただいています。相当練習しているようなので、出演をお願いするのも可哀想だなと思いながらもお願いしちゃうんですが、素晴らしいなと思ってしています。頑張ってください。

(委員) 衣装は自分たちで作っているんですか？

(学生) デザインは自分たちで考えて、業者の方と相談しながら作っていただきました。

(委員) 衣装の予算などはどのように工夫されていますか？

(学生) 部費と学校からいただける予算なども利用しながら作っています。

(委員) 区内外で積極的に活動し、地域のイベントの盛り上げに貢献している。

(委員) 子供たちにも発表の機会を提供している点がすばらしい。

(委員) ダンスだけではなくボランティア活動も多く評価できる。

○聖和学園短期大学スポーツクラブ BOA SORTE (スポーツによる地域貢献活動)

(委員) 区内の幼児や小学生を対象にして、体力向上・コミュニケーション能力の育成に成果あり。サッカー、ブラインドサッカー、野外活動サポート、キャンドルづくりなど積極的な活動が良い。

(委員) スポーツを通して幼児から保護者まで参加できるような取組みが良かった。近隣地域の行事、学校などへの協力など、活動目的は達成できていると思う。

(委員) 障がい者スポーツ支援の取組みがすばらしい。高齢者との交流も検討してもよい。

○仙台白百合女子大学 志水ゼミ (地域生き活きプロジェクト)

(学生) 本当は福祉コースですが、あまり学科にこだわらず、高校の時にやっていた得意なものとか、自分の個性を活かせるようなことをやっていこうという工夫をしてきました。

(委員) 活動の場所が毎年少しずつ増えていますよね。そうすると負担もそれなりにかかってくると思うん

ですが、一番苦労した点というのはどういうところですか？

(学生) そうですね、基本的に依頼は断りませんでした。いくつかの地域と関わらせていただいた時に、この地域では合わなかったことが他の地域では合うということがあって、地域によって合う合わないということが見えるようになってきて、いろんな地域で活動したら、また違うものが見えてくるのかなと思ったので、活動する地域をどんどん増やしていったんですが連絡調整はすごく大変だったので自分一人に集約しました。

(委員) 4年生と1年生だけで活動しているんですか？

(学生) そうですね、こういう活動は、意欲的にやるのと頼まれてやるのとでは温度差があるというか、手伝いという意識だと継続が難しいところがあります。

(委員) 断らなかったということですけど、外部からの依頼というのはちょくちょくあるんですか？

(学生) 町内会経由で来ることもあります。一丁目でやったら二丁目もとか。区役所さんからの依頼も基本的には断らずに何でも参加して経験につなげていくということをやっていました。

(委員) 授業との両立は大変だったのでは？

(学生) 基本的に地域との打ち合わせは土曜だったことと、行ける人が行くようにしていたので、授業やバイトとの調整はできていました。恵まれていたのかもしれない。

(委員) みんなの協力が必要だということですね。

(学生) そうですね。

(委員) 行事に企画から携わる取り組みや、特性を活かしたオリジナルの活動の工夫がみられて良い。いろいろな人との連携が豊かになることの学びの成果はすばらしい。地域住民との交流を深められたと感じていることが良い。

(委員) 活動者自身にとってのメリットを発信していけると、活動者を増やしていけるのではないか。

(委員) 具体的な活動の事例の報告があるとよかった。

○宮城大学 マイチゼミ（地域参画型活動活性化支援プロジェクト）

(学生) デザインを通して地域を盛り上げるところを大事にして活動しています。小学校2年生を対象にレジワークショップをやらせていただいたんですけど、レジンというのは小学校2年生ではまだ扱わないような素材であると思うので、そういった素材を使うことで、デザインのいろいろな視点をもってもらうきっかけづくりにもなればと考えて実施してきました。

(委員) 小学生の感想はどうでしたか？上手に使いえましたか？

(学生) レジンは透明な液体をUVライトというもので硬化して、ネームプレートにしてもらったんですけど、ちゃんと形にしてくれていたのがよかったと思います。ただ、レジン液は素手で触ってはいけないので手袋をしてもらったんですけど、手袋しながら作業するって結構難しくて、そういうところで対象年齢をもうちょっとあげればよかったのかなとは感じました。

(委員) 子供さんだけでなく保護者の方とか地域のリーダーの方とか、そういう人とやり取りをするうえで学んだことをちょっと教えてほしいと思うんですが、デザインを通してその面白さを伝えたいという思いを、どのように地域の人と共有して活動できましたか？それとも伝わらなかったですか？

(学生) ワークショップは私たちが主体的に考えたものなので、あまり地域の人と相談しながらということではなかったんですが、ポスターは町内会の人たちともっと地域性を出してほしいとか交流しているワイワイしている感じを表うまく現してほしいとか色づかいをもっとカラフルにしてほしいとか、話し合いながら進めていきました。

(委員) いろんな行事にも参加されて、それをちゃんとデザインに取り入れていってという活動を、すごくいいなあと思ってお聞きしていました。

(委員) ポスターを制作することで地域への広報は有効。小学生を対象にしたワークショップなどの工夫が

みられる。活動を通して地域の方々、子供たちとの交流ができたという達成感が良い。

(委員) 自分たちへのメリットと、地域貢献の両立がうまくできていると感じた。

(委員) ポスターのデザインがとても良い！デザインだけでなく、デザインに至る経緯や地域イベントへの参加が評価できる。

○東北生活文化大学 版画研究室（生文大ワクワクプロジェクト）

(学生) 今の子供たちはスマートフォンとかで遊べちゃいますし、何でも買えてしまう世の中なので、その中で、自分で作る楽しさとかを味わってほしい、自分の学校に来てねというわけではないんですけども（笑）美術に興味関心を持つきっかけになってくれたらいいんじゃないかなと思って活動していました。今年は「ぶんぶんごま」づくりのワークショップを結構やったんですけど、時間がかかって上手く回せるようになるとみんな喜んでくれていました。

(委員) いろんなイベントに参加してくれているということで材料費が結構かかると思うんですが、その点はどのような苦労というか工夫をされていますか？

(学生) 一応ゼミ費ということで個人から集めたりもしているんですが、学校の近くにあるギャラリーで毎年夏に T シャツ展というのをやってまして、それぞれ自分たちでデザインしたイラストや柄などをシルクスクリーンという技法で印刷したものを売ったり、大学祭での売り上げをゼミ費として利用したりだとか、そんな感じでやりくりしてます。

(委員) 今日の報告、すごい斬新で、皆さん楽しそうに取り組んでいるなということが覗えたんですけど、だれが考えたんですか？

(学生) 紙芝居ですか？あれは、以前から紙芝居でやってたようで、皆さん真面目な発表をしている中で美術学科なんだから美術っぽいものとか、真面目な中で一つくらい楽しいものがあってもいいんじゃないかっていうことで考えた末に紙芝居になったんじゃないかなって思います。

(委員) 版画技法の魅力を伝えるためのイベントへの参加は有効。お親子で遊んでもらう工夫が良い。

(委員) 巨大アートなど、インパクトのある作品で話題性を高めてもよい。

(委員) 地域との協働のプロセスが報告から見えないのが残念。

(委員) 斬新な発表でよかった。学生らしく楽しんで取り組んでいる様子が見える。

○宮城学院女子大学現代ビジネス学科土屋ゼミ

（バリアフリーマップの作成：みんなが楽しめる街・泉中央を目指して）

(学生) 創意工夫した点としては、最初は紙媒体のマップを作成しようと考えていたのですが、おしゃれな店など写真を使って紹介していけたらなという話になって、対象者も女性の車いすユーザーと考えていたので一番影響力のあるのは紙ではなくインスタやツイッターなどの SNS だと考え発信方法を変えたことです。

(委員) お店の選定は、どういう基準で行ったのですか

(学生) 最初は、これまで、あまり紹介されることのなかった美容室がいいんじゃないかということで、電話してみたんですけど、あまり取り合ってくれなくて、パン屋にしました。

(委員) パン屋さんは比較的フレンドリーに対応してくれました？

(学生) はい。

(委員) どうして美容室は断られたと思いますか？

(学生) 詳しくはわからないんですけど、結構、入口が階段のところが多くて、車いすの方が入れないからじゃないかと思います。

(委員) 指摘されるのが嫌だったのかな。車いすユーザーが使えないよってという結論になるのが。

(学生) 手伝ってもらおうという方法もあるということも提案していたんですけど。

(委員) 伝わらなかった。

(学生) はい。

(委員) そういうふうには地域で活動しようとする、机上の勉強とはまた別の困難が存在するというのがあるからね、それも勉強の一つなんですよ。

(委員) SNS を通じての情報発信は有効。区内の施設等の現地調査、情報収集は良い。

(委員) すばらしい事業内容。活動を広げてほしい。

(委員) ハンディキャップのある方の視点に立った調査方法についての学びと実践が良かった。ハンディキャップは車いすユーザーのみではないのですが、全体をどう捉えるかという視点を持ってほしい。

(委員) 意義のある事業だと思うので、SNS での情報発信では情報の閲覧がしにくいと感じました。

○聖和学園短期大学 地域サポーターズ聖笑

(地域 Smile 集まる居場所づくりプロジェクト・世代間交流 2018～通所型・訪問型サロン活動～)

(学生) 今年度チャレンジしたことが二つあって、一つは、高齢者の方は騒がしい所は苦手かもしれないという先入観があったのですが、やってみないとわからないということで「キャリアフェスタ」という学校で行われている文化祭に高齢者の方をお呼びしてダンスやファッションショーを見ていただいたところ、かなり好評をいただいて、もう一つは、私たちが主催というわけではないんですが、企業の方からお話をいただいて、地域の通所の利用者の方などをお呼びして、車いすでも安全に楽しんでもいただける熱闘甲子園（リアル野球盤）という野球をやらせていただいたときに、初めて顔を合わせる方々だったので、職員の方と連携しながら私たち学生が呼びかけることで、ご自分からはお話が進まない方にも楽しんでいただけるように工夫しました。

(委員) とても楽しいイベントに取り組んでいます、ファッションショーの衣装はどのように準備しているんですか？

(学生) ファッション系の勉強をしている学生が、年間を通して授業の一環として衣裳の制作や、ウォーキングの練習なども行いました。

(委員) 課題にメンバーの減少とありますが、今メンバーは何人くらいですか？

(学生) 2年生 15 名、1年生が 6 名で活動していて、2年生が卒業してしまうと、大人数だからできていたことが難しくなってしまうと思うので、手遊びなど少ない人数でもしっかりやっていけるものをきちんと引き継いでいけたらと考えています。

(委員) ファッションというのは、かつては王侯貴族やブルジョワ層の文化でしたが、皆さんが活動しているそういうファッションというのは、一般市民の人たちが発案する今の文化なんですよ。ですからそれを泉区で披露してもらっているというのはとても元気づけられるし地域づくりとしてはすごくいいことだなあと思いましたので、来年以降もつないでいけるように頑張ってくださいね。

(委員) 優しさが伝わってくる活動。1年生に活動に対するアンケートを取っており評価できる。

(委員) 通所型、大学開催はとても良い。

(委員) 目標設定が明確。新たな取り組みを行っている点がすばらしい。

(委員) 世代間交流の着眼点が良い。新しいコラボ企画（リアル野球盤）も楽しそう。

○仙台白百合女子大学 佐々木ゼミ（健康な食事を通した絆づくり）

(委員) 皆さんの活動は、日本の伝統、和の文化をですね継承して広めていくという活動ということですが、これも、これは食材費とか結構かかるんじゃないですか？

(学生) 児童館の敷地で野菜を栽培しているので、それを一緒に収穫して作ってみようという企画もしていますし、少しでも安くできるように色々なお店を駆け回って探しました。

(委員) 地産地消ですね。

- (委員) 市民センターとかの予約が取れなくて大変だったというお話がありましたが、そういった活動のプロセスをご報告いただいたのがとても良かった。たぶん他の皆さんもそういうところで苦勞されていると思うんですけども、地域の活動ってやっぱりそういうことなんです。会場の確保とか、意見の合わない人とどうやって協力していくとか。そういうところを体感して、なかなかうまくいかないなあというところも報告していただいたのがすごく良かった。それが糧になるんだろうなと思って聞いていました。本当にありがとうございます。頑張ってください。
- (委員) おせち料理のルーツとか、そういう講話をしたというのがすごく良かった。私もよく知らないで食べていたので参加した人は勉強になったと思う。
- (学生) 授業で学んでいる中で、今の子供たちはお雑煮やおせちを食べる機会も減ってきているのではないかと考えて企画しました。実際、初めて食べたという子もいたので、食文化の継承という意味でもよかった。
- (委員) 子供たちにおせちなどの説明をした後にお雑煮を作ったんですか？
- (学生) 先に作って、食べながらお話をしました。
- (委員) いいですね。西日本と東日本でお持ちの形が違うとか、その意味とか、そういった話も子供たちにしていくとよいと思います。頑張ってください。
- (委員) 自分たちの専攻を活かした活動で、料理に工夫がある。もう少し活動回数を増やしてもよい。
- (委員) f mいずみなどのPRは有効。ポスターも可愛く良いと思う。おせち料理を通して地域住民との交流を持てたことへの成果は良い。伝統料理・行事の大切さを感じたことはすばらしい。
- (委員) 事業の対象、人数を増やせるとよい。他の地域貢献団体との連携を図ると活動の幅を広げられるのでは？
- (委員) 企画運営の協働のプロセスを考えた点が良かった。
- (委員) 食文化を通じての世代間交流が評価できる。今後の活動継続に期待する。

○宮城学院女子大学 渡部研究室（みどころたべどころマップ～in 泉区～）

- (学生) 女子大生目線でインスタ映えをキーワードにクーポン付きパンフレットの作成とInstagramの立ち上げを行いました。できるだけ多くの方にクーポンを使っていただきたいかったので、泉周辺だけでなく、仙台駅周辺でも配布しました。パンフレットを受け取ってくれたおばあちゃんが「ぜひ孫を連れて行きます」と言ってくださって、すごくいい機会になったのかなと思いました。今回は女子大生目線ということで基本的に女性をターゲットにしたお店が多かったので、もし来年もできるとしたら男性向けであったり高齢者でも楽しんでいただけるようなお店の紹介をしていけたらと思います。
- (委員) 店舗取材で苦勞されたことはありますか？
- (学生) お店側からも、いろいろとご要望をいただきまして、間違いのないように、何回かお店に通って下書きを細かくチェックしていただきました。
- (委員) パンフレットの配布は勇気がないとできないので、とても頑張ったと思います。
- (委員) パンフレットは何部作成したんですか？
- (学生) 1500部作って、泉周辺と仙台駅周辺、宮城学院女子大学で配布したほか、お店や市役所、近隣の小中学校にも置かせていただきました。学生の中でもクーポンを使ってくれた人もいたみたいです。
- (委員) 情報を共有することの大切さの学び、紹介したお店へ足を運んでくれる人もいたことで、泉区の魅力を知ってもらえたと感じたことが良い。
- (委員) パンフレット以外の発信方法（特にターゲットである若者を呼び込む）も検討するとよい。
- (委員) Instagramの活用で実際に集客が増えたか検証が必要。高齢者が興味を持つようなお店の紹介も考えてみてはどうか。
- (委員) パンフレットのデザインに少し工夫があればよい（インスタとの連動や、色、フォントなど）。

○宮城学院女子大学 正木ゼミ

(ラジオ番組：管理栄養士を目指す宮城学院女子大生の「パワフル奮闘記」)

(学生) ラジオ番組の中で「泉いいところ大発見」というコーナーを設けてやったんですけども、やはりラジオだと耳からの情報のみになりますので、自分たちが取材して感じたことをリスナーの方々にきちんと伝えられるように、話し方や表現方法など工夫しました。また、管理栄養士を目指しているということで、例えば抹茶カフェの紹介の際には、抹茶に含まれる成分など、健康にからめて紹介したりしました。

(委員) 26 回も番組を担当して、内容もとてもバラエティに富んだものになっていると思いますが、構成などは全部自分たちがやっていたんですか？

(学生) 企画も取材もすべて自分たちでやりました。また、放送する内容もきちんと裏付けをとるようにしていました。

(委員) スタッフは何人くらいですか？

(学生) 3 年生 12 名、4 年生 10 名でやっています。一回の放送では正木先生と学生が 3 人でやりますが、前半は 4 年生 2 人と 3 年生 1 人、後半は 3 年生 2 人と 4 年生 1 人というように、3 年生メインに変わっていくようにしています。

(委員) f m いずみのラジオ番組を通じて発信することは効果的。区内で働く方々や生活者と学生たちとの絆ができ、広報活動ができたと感じられたことは良い。

(委員) 活動がどのように地域に貢献しているか検証してみるとよい。

(委員) コミュニティ FM への参画を通してどんな学びがあったか、報告があってもよかった。地域資源を知るだけでなく、地位を動かしている担い手に焦点を当てて紹介してはどうか。

(委員) アーカイブされている所が良い。学生の視点でパーソナルな意見が聞けて良いかと思う。

【今後の抱負・行政や大学に向けての要望等】

(東北学院大学 菅原真枝ゼミ)

何度か新たな地域からの要請を受けましたが、3 年生は授業、4 年生は就活のために、行きたいけれども行けなかった。そういう意味でも、(私たちがいなくてもパンフレットを見ながら体操やストレッチができるようにという) 今年の試みは良かったと思います。

予定を合わせてみんなで活動したかったが、授業や就職活動との兼ね合いで難しかった。ゼミの活動の一環でやっているものなので全員で参加できる活動に発展させられたらと思っています。

(聖和学園短期大学 DANCE FOR ALL)

2 年間の学生生活で毎年代替わりをするので引継ぎをしっかりとしながら、来年度も学業ときちんと両立して地域の方々と関わる活動を継続していきたいと思っています。

(仙台白百合女子大学 志水ゼミ)

引き継いでくれる後輩が、活動と学業を無理なく両立していけるようにと思っています。

(宮城大学 マイチゼミ)

ワークショップをやって終わりではなく、その経験を次につなげられるように工夫していきたい。

(東北生活文化大学 版画研究室)

人数や時間の制約がある中で活動を継続していくために、生活美術学科全体で、他のゼミやゼミに入っていない人も巻き込んでやっていきたい。

(宮城学院女子大学 土屋ゼミ)

女性に絞って SNS で発信という形にしましたが、車いすユーザーは女性だけではないし、SNS をやっていない人もいますので、お店側をお願いして、車いすユーザーも安心して利用できることが一目でわかるような表示をしていただくなど、いろいろな人が使いやすいまちづくりという観点で活動できたらと考えています。

(聖和学園短期大学 地域サポーターズ聖笑)

短大ということで学生生活が短く、学業と両立する中で時間の制約がありサロン活動のリハーサルもなかなかできませんでした。活動内容について、きちんと後輩に引継ぎをしていくことが大切だと思います。

(仙台白百合女子大学 佐々木ゼミ)

要望としては、調理室がある施設が気軽に借りられるようになればいいと思います。この活動を続けていくうえで新しく入ってくる3年生にきちんと引継ぎをしたいと考えています。

(宮城学院女子大学 渡部研究室)

パンフレットは、サイズの関係で情報を載せきれなかったので来年は工夫して改善していきたいと思います。要望としては、泉の隅々まで取材してお店の紹介をしたかったのですが、アクセスが不便で難しかったので改善していただけるとよいと思います。

(宮城学院女子大学 正木ゼミ)

ラジオ番組を2年間担当していて、紹介していない場所が限られてきています。できるだけ重複しないようにしていますが、おすすめスポットの情報がほしいです。

(委員長)

みなさんから様々な課題が寄せられましたけれども、そういったことを踏まえて来年度泉区では、1〜2回、協働でイベントに参加する企画を実施するようですので、ぜひ積極的に参加して、他の大学のいろいろな活動を実際に見て、大いに自分たちの活動に役立てていただければと思います。